

産地生産基盤パワーアップ事業  
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 島根県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標				スマート農業推進枠				地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係 数	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
					現状		目標		実績		事業実施 前年度	目標年度	年度 導入・定着の取組の 実施内容	年度 実績						
					年度	面積 単位 出荷量 単位	生産量又は 価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位 出荷量 単位										
大田市 農業再 生協議 会	2	大田市 (施設野 菜)	施設野菜 (メロ ン、レ タス、 ミニト マト、 アスパ ラガス)	施設野菜産地の形成の推進 ① 環境制御技術等の導入したハウス及び施設整備によるミニトマトの周年・計画生産・契約取引の取組 ② 資材導入による規模拡大 ③ 国内需要の高いアスパラガス等の産地化に向けた高品質・安定供給の取組	販売額の10%以上の増加	H30 750千円 /10a	4.8 ha 77.7 t 465 円/kg	-	R4 1,532千円 /10a	6.8 ha 154.5 t 672 円/kg	R4 1,653千円/10a	4.6 ha 116.5 t 655 円/kg	アスパラガス 1,131 ミニト マト 626 メロ ン 457 レタ ス 178	アスパラ ガス 1,160 ミニト マト 620 メロ ン 558 レタ ス 179	1,548千 円/10a	102.0%	成果目標を達成した。 一方で、面積及び出荷量は目標年度の水準に達しなかった。目標値と実績を比較すると、メロン及びレタスにおいて数値の乖離が特に顕著である。これは生産者の高齢化による経農や高温による品質の低下で品目転換する者が出るなど、栽培面積の減少したと推測される。 今後は、作付け3年以上のものが増えてきたアスパラガスにおいて更なる収量の増加が見込めるほか、ミニトマトの二期作等の取組の推進により収量の増加を図っていく。また、全品目において品質の高位平準化を図り、空きハウスの有効利用、新規就農者による産地の拡大に向けた取組を関係機関と一体となって引き続き進めていく。	目標年度において成果目標を達成した。 一方で、メロン及びレタスは生産者の高齢化による経農や高温による品質の低下で品目転換する者が出るなど、栽培面積および販売額が減少した。アスパラガスは収量増加が見込め、ミニトマトの二期作等の取組の推進により収量の増加を図っていく。 また、全品目において品質の高位平準化を図り、空きハウスの有効利用、新規就農者による産地の拡大に向けた引き続き指導していく。	【面積要件】 中山間農業地域 (要領別紙4のイに該当)	面積：各作物の合計面積(延べ面積)を記載
松江地 域農 業再 生協 議 会	1	横屋千 拓地	施設野菜 (トマ ト、ア スパ ラガ ス)	施設野菜産地の形成促進 規模拡大に必要なパイプ、被覆資材等を導入し、パイプハウスを整備することにより産地形成	販売額の10%以上の増加	H30 12,500,686	トマト 0.45 アスパ ラガ ス 0.09 計 0.54	-	R4 14,680,606	トマト 26,037 アスパ ラガ ス 417 計 26,455	R4 14,339,555	トマト 22,283 ミニト マト 7,810 アスパ ラガ ス 90 計 30,183	トマト 376 ミニト マト 741 アスパ ラガ ス 1,716	13,965,604円	67.2%	以下の理由により目標未達成となった。 アスパラガスについては、地下茎の生育不足によりR4年は土作り及び出荷を抑制し株養成に努める必要があったため、出荷量が少なくなり、結果単収が抑制され、計画を大きく下回る出荷量となった。 トマトについては、トマト・ミニトマトの合計の面積、出荷量、単収とも計画値を上回ったものの、夏場の酷暑により一部品質が劣化したため、単価は取組前よりも低い実績額となり、さらに単収補正の結果、販売額実績が計画値を下回った。 アスパラガスについては、株養成や土づくりより地下茎の生育不足が解消されたため、今後は適切な栽培管理を行うことで、生産量と販売額の向上を図る。 トマトについては、酷暑・酷暑の発生による品質劣化対策として耐暑性の高い新品種への切り替えを検討するとともに、現在の品種に対しては、天候や気候の変化に応じて速やかな換気等の対応、遮光ネットの利用を徹底することで、単価向上を図る。 以上の対策を、関係機関による巡回指導により徹底し、目標達成を目指す。	目標年度における成果目標は未達成となった。 アスパラガスは、株養成や土づくりのため出荷量を抑制せざるを得なくなり、出荷量が減少し、計画値を下回った。 トマトは、計画値を上回ったものの、酷暑による品質の低下により単価は取組前よりも低い実績額となり、販売額実績が計画値を下回った。 今後は、各品目について以下のような指導をしていく。 アスパラガスについては、適切な栽培管理を行うことで、生産量と販売額の向上を図る。 トマトについては、耐暑性の高い新品種への切り替えや適切な換気、遮光ネットの利用により、単価向上を図る。	【総販売額で比較する考え方】 (H30年度平均) 販売額(JA扱い) 2,327,874円/10a トマトの販売額 2,652,000円/10a (地域主要12品目中1位) アスパラガスの販売額 637,104円/10a (地域主要12品目中2位)		
出雲市 農 業再 生協 議 会	6	出雲市	デラウ ェア (優良 系統 柳田 系)	デラウェア優良系統柳田系の産地形成 ・規模拡大に必要なパイプ、被覆資材等の整備により産地化の促進を図る	販売額の10%以上の増加	R1 36,708千 円	12.0 ha 25 t 1,445 円/kg	-	R4 53,306千 円	13.7 ha 43 t 1,241 円/kg	R4 102,418千 円	12.7 ha 68.4 t 1,497 円/kg	1.124 円/kg	1,420 円/kg	0.792 千 円	267.5%	優良系柳田デラへの改植が進んだことと、出荷量が増加し、単価も向上したことから成果目標を達成した。今後は関係機関とともに改植や販路拡大を進め、販売額の向上に努めるよう引き続き指導を行っていく。	優良系柳田デラへの改植が進んだことと、出荷量が増加し、単価も向上したことから成果目標を達成した。今後は関係機関とともに改植や販路拡大を進め、出荷量及び販売額が向上するよう引き続き指導する。		
飯南町 地 域農 業再 生協 議 会	2	飯南町 (トマ ト、パ ブリ カ)	施設野菜 (トマ ト、パ ブリ カ)	施設野菜産地の形成の促進 ・施設野菜(トマト、パブリカ)の規模拡大に必要なパイプ、被覆資材等を整備することにより産地化の取組	販売額の10%以上の増加	R1 38,308,000 円 (第1期 計画目 標値: 41,806,000円)	トマ ト 2.0 ha 68,500 kg パブリ カ 0.9 ha 19,900 kg 計 2.9	-	R4 61,054,000 円 (第1期 計画目 標値から 146.0% 増加)	トマ ト 2.67 ha 120,150 kg パブリ カ 1.22 ha 29,280 kg 計 3.89	R4 33,861,785 円	トマ ト 1.6 ha 32,752 kg パブリ カ 1.0 ha 24,847 kg 計 2.6	トマ ト 345 円/kg パブリ カ 369 円/kg	トマ ト 11,036,933 円 パブリ カ 18,460,476 円 計 29,597,409 円	-38.2%	以下の理由により成果目標未達成となった。 トマトにおいては、コロナの影響等の不測の事態で2経営体がトマト栽培をとりやめたため、作付面積が減少。新規就農者確保に向けた活動はコロナの影響で自粛したため、新規就農者を増やすことができず作付面積の確保・拡大に至らなかった。また、供給過多により市場への出荷量を調整したこと、梅雨明け後の反収が計画値を下回る結果となった。 パブリカにおいては、新型コロナウイルスの拡大により活動が制限され、新規就農者数が減少したこともあり、パブリカ作付面積は確保しきれず、計画値には至らなかった。また、うどんこ病発生で収穫出来ない期間があり、出荷量が計画値を下回った。 今後の対策としては、相談会を近畿圏に加え、関東圏へも拡げ、多くの参加者へ就業をPRしている、相談会以降も個別相談等を丁寧に実施し新規就農者を確保していく、作付面積を拡大していく、トマトについては、農家へ適正な施肥管理を行うよう指導する。パブリカについては、病害対策としてうどんこ病に罹患している品種を導入して病害の発生を抑え、農家への指導として農家の定期的な散布の確認及び薬剤の品種の確保・選定を実施する。	目標年度における成果目標は未達成となった。 トマトは、戻りされ病、パブリカはうどんこ病の発生により出荷量が減少し、計画値を下回った。また、新規就農者の確保に苦慮し、生産を伸ばせなかった。今後は、新規就農者の確保のため、就業相談会や個別相談を実施する際に普及員とも連携し新規就農者の受け入れ体制を整備する。 また、栽培面については、病害の発生を防ぐため、適正な施肥や耐病性品種の導入、効果的な農薬散布により単収向上できるように技術指導を行う。	【面積要件】 中山間農業地域(要領別紙7のウに該当)	【総販売額で比較する考え方】 飯南町の平均販売額: 837,802円/10a トマトの販売額: 1,182,808円/10a (地域主要8品目中3位) パブリカの販売額: 1,627,945円/10a (地域主要8品目中1位)	
出雲市 農 業再 生協 議 会	7	出雲市	アスパ ラガ ス(施 設栽 培)	施設栽培アスパラガス生産規模拡大に必要なパイプ、被覆、灌水等資材の導入	販売額の10%以上の増加	R1 56,204千 円	5.5 ha 53,295 t 1,055 円/kg	-	R4 67,621千 円	6.6 ha 59,109 t 1,144 円/kg	R4 55,723千 円	5.9 ha 48,245 kg 1,155 円/kg	1.128 円/kg	1,160 円/kg	0.972 千 円	-17.7%	面積の伸び悩みやR3年秋の斑点病による春芽の出荷量の減少と夏季の高温による夏芽収穫の減少により、目標未達成となった。 R2~4年度は特に夏季の高温が影響し、病害虫や異常発生が多く、目標とする反収に届かなかった。アスパラガスの枝が込み入らないよう切った後、予防剤を10日に1回程度散布するなど病害虫等の適切な対策を講じた。今後はこれまで以上に選別防除やほ場内管理を徹底するよう指導する。 また、面積が伸び悩んだ理由としては、新規就農者数よりも高齢化で諦めていく生産者が多い。当初想定した目標よりも面積が拡大できなかった。 引き続き、部会、関係機関等との一体的な情報共有や協力体制をより強化し、販売額向上や担い手確保を図りつつ、巡回指導による選別管理を図り、単収向上につなげる。 また、協議会としても部会やJA等の補助事業を活用し、ハウスや機械整備を進めることで生産の拡大や新規就農者の獲得につなげるよう取り組んでいく。	目標年度における成果目標は未達成となった。 R3年秋の斑点病による春芽の出荷量の減少と夏季の高温による夏芽収穫の減少により、目標未達成となった。今後は、巡回指導により防除層を用いて選別防除を啓発するとともに遮光ネット被覆等による高温対策を推進し、反収向上を指導する。また、新規就農者の受け入れ体制を整備し、ハウス整備による栽培面積の拡大につなげるよう指導していく。		